

食品安全情報（化学物質） No. 21/ 2016 (2016. 10. 12)

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

(<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>)

<注目記事>

【ANSES】 ANSES は 3 歳以下の子供の食事を精査する

フランス食品・環境・労働衛生安全庁（ANSES）は 3 歳以下の子供の多数の物質への食事暴露についての初の概要を発表した。幼児のトータルダイエツトスタディ（iTDS）では、赤ちゃんと幼児の食事の 95%以上をカバーし、およそ 670 物質を分析した。毒性参照値をもとに評価したところ、ほとんどでリスクが除外できた。しかしながらリスクが除外できない物質が 16 あり、そのうち 9 つの物質（無機ヒ素、鉛、ニッケル、PCDD/Fs、PCBs、T-2 & HT-2 マイコトキシン、アクリルアミド、デオキシニバレノールとその誘導体、フラン）は無視できないほどの人数の子供たちが毒性参照値を超えて暴露されており、優先的に対応すべきとしている。

*ポイント： 報告書がフランス語なのが残念ですが、膨大なデータが物質ごとにまとめられています。リスクがあると判断された 16 物質については、環境への放出を管理する政策、工程管理、規制値の設定あるいは削減など、暴露低減化のための管理が必要であると助言しています。

【BfR】 BfR MEAL スタディー情報と協力

ドイツ連邦リスクアセスメント研究所（BfR）はドイツ連邦食糧農業省（BMEL）の要請により初めてのトータルダイエツトスタディを 2016 年秋に開始する。これは、BfR MEAL スタディ（Mahlzeiten für die Expositionsschätzung und Analytik von Lebensmitteln-暴露評価のための食事と食品の分析）と名付けられた。BfR MEAL スタディは 7 年間実施する計画で、最初の結果はおそらく 2019 年に入手できるようになる。

*ポイント： この TDS の対象となる暫定物質リストが公表されています。上記の ANSES もそうなのですが、対象物質リストを見るとその種類が多く、非常に幅広く調査しようとしていることがわかります。TDS は多くの経費と労力、時間を要する作業ですが、リスク評価がハザード重視から暴露重視に変わってきたことを受けて、食品安全にとっては必須のものになってきています。

【FDA】 FDA は食品表示の「健康的（ヘルシー）」強調表示を再定義する

米国食品医薬品局（FDA）は食品表示の「健康的（ヘルシー）」栄養含量強調表示を再定義するプロセスを開始したことを発表した。「ヘルシー」の再定義は、消費者に公衆衛生助言に一致する食品の選択を簡単に速やかにできるようにするための情報とツールを提供し、企業がより健康的食品を開発するよう促すための全体的計画の一部である。

FDA が栄養含量表示としての「ヘルシー」という用語をどう再定義するのか検討している間は、企業は現在の規制上の定義を満たす食品に「ヘルシー」という用語を使い続けることができる。

*ポイント： 栄養学に関する新しい研究結果が蓄積されると、何が「健康的」なのかという解釈も変わります。それにともない、表示の定義についても定期的に見直して最新のものにする必要があるというわけです。

目次（各機関名のリンク先は本文中の当該記事です）

[【FAO】](#)

1. コーデックス委員会

[【EC】](#)

1. 食品獣医局（FVO）査察報告書：スウェーデン、コスタリカ、トルコ、他
2. 食品及び飼料に関する緊急警告システム（RASFF）

[【EFSA】](#)

1. グリホサート：EFSA は生データを共有する
2. EU 各国の食品安全当局は EFSA との協力を強化する
3. GM 植物のアレルギー原性ガイダンスが関係者に提示される
4. 遺伝子組換え関連

[【MHRA】](#)

1. ホメオパシー医薬品あるいはレメディの登録

[【PHE】](#)

1. （砂糖の）削減と組成変更に関する PHE の説明会に企業が参加

[【NHS】](#)

1. Behind the headlines

[【ASA】](#)

1. ホメオパシーの広告基準

[【BfR】](#)

1. BfR MEAL スタディー情報と協力
2. 第二回ナノテクノロジーに関する合同シンポジウム
3. グリホサートについてさらに透明に：BfR は EFSA による生の科学データ発表を支持する
4. REACH 会議 2016：日用品中の化学物質—どうしたら消費者保護を改善できるだろうか？
5. 危険な誤認：キノコ中毒は死に至る危険性がある

[【RIVM】](#)

1. ベンタゾン、MCPA、メコプロップを用いたオランダ浸出決定樹の評価
2. ポリエチレン飲料水パイプを介する汚染地下水の浸透：リスク評価方法

[【ANSES】](#)

1. ANSES は 3 歳以下の子供の食事を精査する

[【FSAI】](#)

1. 生鮮製品のより安全な生産のための新しいガイダンス
2. ニコチン酸含量が高いため Grenade.50 Calibre Pre-Workout のリコール

[【EVIRA】](#)

1. 魚の摂取に関する食事アドバイス

[【FDA】](#)

1. FDA は食品表示の「健康的（ヘルシー）」強調表示を再定義する
2. シーフード HACCP
3. FDA はホメオパシー生歯錠剤とゲルを使用しないよう警告
4. 全国食品安全教育会議 2017-登録開始
5. 加工食品規制計画基準 2016 更新
6. 栄養イニシアチブの発行日時についての食品製造業者のための Q & A
7. 警告文書

[【USDA】](#)

1. USDA は遺伝子組換えクレーピングベントグラスの環境影響声明案を発表
2. 動物の育て方に関する強調表示を立証するために提出する必要がある書類についての FSIS ガイドライン

【FTC】

1. FTC、USDA は「オーガニック」強調表示の消費者の認識についての円卓会議の議題を発表
2. 米国巡回裁判所は LeanSpa 減量サプリメントの詐欺的第三者宣伝についてアフィリエイトマーケティングネットワーク運営者に責任があることを発見した
3. 関節痛サプリメントの販売業者は詐欺的宣伝や保証について FTC に罰金を払うことに合意

【TGA】

1. 安全性助言

【香港政府ニュース】

1. 汚染カニのバッチリコール
2. カニは安全性検査に合格

【MFDS】

1. 日本産輸入食品の放射能検査の結果
2. 説明資料（アジア経済「食品異物が摘発された大企業の処罰‘軽い’」の記事に関連する）
3. 中国産冷凍カワニナの肉から鉛が基準を超過して検出されて回収措置
4. 入念にチェックして、健康に食べよう！

【AVA】

1. 第 38 回 ASEAN 農業森林担当閣僚会議 共同声明

【その他】

- ・ (ProMED-mail) シガテラ中毒ーインド：(カルナタカ) 汚染魚、第一報
- ・ (EurekAlert) BMJ 症例報告：代替療法の危険性、ラプンツェル症候群、ダニ媒介疾患
- ・ (EurekAlert) 2015 年の前例のない有毒藻類の大発生には海の状態が寄与
- ・ (NY 州司法長官) A.G. Schneiderman は Walgreens と Walmart 向けのハーブサプリメントを作っている NBTY と大きな全国的合意を発表した

●国連食糧農業機関（FAO：Food and Agriculture Organization of the United Nations）

<http://www.fao.org/>

1. コーデックス委員会

● オンライン意見提出システムのユーザーマニュアル発行

User manuals for online commenting system published

27/09/2016

<http://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/roster/detail/en/c/436614/>

メンバーとオブザーバー向けマニュアル

● 中央アジアで初のコーデックス欧州地域調整部会会合

First meeting of Codex European Committee in Central Asia

02/10/2016

<http://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/roster/detail/en/c/444896/>

2016年10月3～7日、中央アジア（カザフスタン）で初のコーデックス会合を開催。

1963 年設立時に欧州 18 ヶ国がコーデックスに参加してから、現在ではコーデックス欧州地域調整部会 (CCEURO) は 51 の国と地域になった。中央アジアからはキルギスタン、カザフスタン、ウクライナ、ウズベキスタン、ベラルーシ、セルビア、ボスニアヘルツェゴビナ、モンテネグロ、タジキスタン、アゼルバイジャン、トルクメニスタンが参加している。中央アジアの多くの国が計画経済からの移行と組織再編の途上にある。概ね農業部門と食品安全目標の発展の可能性は高い。今回の Astana での会合は、この地域にとって非常に重要である。

*CCEURO30

<http://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/meetings-reports/detail/en/?meeting=CCEURO&session=30>

● 食品を安全に - FAO は CiBi とコラボ

Keeping food safe - FAO collaboration with CiBi

<http://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/roster/detail/en/c/445562/>

2016 年 9 月にイタリアの雑誌 CiBi が FAO との協力の一環としてこの記事を出版した。この記事は雑誌の読者に FAO の各種活動を知らせることを目的とする。

- ・ 聖アントニウスの火 (麦角中毒)
- ・ 耐容一日摂取量 (TDI)
- ・ マイコトキシン
- ・ 優良規範と HACCP
- ・ リスクを評価する必要性

● 世界食糧週間 2016 年 10 月 10-16 日

World Food Week 10-16 October 2016

<http://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/roster/detail/en/c/445652/>

毎年 10 月 16 日は世界食糧デーである。2016 年のテーマは「気候は変わる。食糧と農業も変わらなければならない」である。世界の目標は 2030 年までに飢えをなくすことである。

● 欧州委員会 (EC : Food Safety: from the Farm to the Fork)

http://ec.europa.eu/food/food/index_en.htm

1. 食品獣医局 (FVO) 査察報告書

● スウェーデン - オーガニック生産及びオーガニック製品の表示

SE Sweden - Organic production and labelling of organic products

28/09/2016

http://ec.europa.eu/food/audits-analysis/audit_reports/details.cfm?rep_id=3671

2015年9月14～25日に実施されたオーガニック生産及びオーガニック製品の表示管理評価に関する査察。全体的に効果的であるが、いくつか弱点があり、すでに着手されている。弱点は主に管理団体の管理計画と配信、特に追加の抜き打ち検査とサンプリング、予防措置を導入する重要な段階での管理者による識別に関連している。さらに2015年末までの解決が求められているが、国の制裁一覧がなく、違反事例に対し管理団体が取るべき措置の一貫性と効果を妨げている。製品のトレーサビリティは強化が必要ではあるがおおむね効果的である。

● **コスタリカーオーガニック生産及びオーガニック製品の表示**

CR Costa Rica - organic production and labelling of organic products

28/09/2016

http://ec.europa.eu/food/audits-analysis/audit_reports/details.cfm?rep_id=3673

2016年2月23日～3月4日までコスタリカで実施された、効果的な適用生産規則が欧州委員会に伝えられていることと、その送達管理システムの効果的な実践を確認するための査察。コスタリカはオーガニック製品の管理認定システムを確立している。管理とモニタリングは概ね国の指定頻度で実施されている。公的管理は管理団体に委任されているが、当局は数多くの検査を行うなど積極的な役割を担っている。違法検出の際は効果的な強制措置が取られている。だが、生産者グループで実施される管理不備の指摘ができていないなど多くの欠点が確認されたことで管理システムの効果は弱められている。

● **管理団体—オーガニック生産基準と管理方法**

XC Control Body - organic production standards and control measures

28/09/2016

http://ec.europa.eu/food/audits-analysis/audit_reports/details.cfm?rep_id=3672

2016年2月26日～3月8日にタイで実施された、オーガニック生産基準と管理団体による管理方法の申請を評価するための査察。概して管理団体による管理認証システムは、EUに輸出するオーガニック製品が規則に従って生産されていることの十分な保証を提供できていない。特に次の内容について。

- ・管理中の違法な/あるいはリスクが検出された製品に関連管理者のリスク評価が確実に考慮されているかが保証されていない。
- ・管理団体の検査官は、管理者の表示とトレーサビリティシステムを見過ごして失敗を招き、検査中に提供された情報を適切に検証していない。
- ・サンプリングは疑われる時に行われず、サンプルを分析する際は非公認施設を使用し、検査結果の信頼性を弱めている。
- ・汚染源の検出調査は質が悪く、深刻な再発する違法が適切に確認されない及び/または追跡調査されないため、管理団体のオーガニック生産規則は不十分である。

・所定の輸出認証システムは、EU 輸出用オーガニック製品の証明書が関連する EU 規則に従って発行されていることを保証していない。

● トルコ—植物由来食品の農薬

TR Turkey - Pesticides in food of plant origin

28/09/2016

http://ec.europa.eu/food/audits-analysis/audit_reports/details.cfm?rep_id=3674

2016年4月12～19日にトルコで実施された、EU輸出用植物由来食品の残留農薬についての管理評価の査察。当局は残留農薬の公的管理を強化し、総合的害虫管理をよりよく使用するために温室の性能を高める包括的な方法を採用した。その方法で国内と輸出市場両方の農薬の最大残留量を順守する包括的な改善を提供できる。生産システムの近代化と順応工程が進行中だが、小規模生産者と輸出者の自己管理不足のため公的管理は十分に保証できていなかった。その結果、ペッパーや、とりわけ旧式の温室のキュウリの生産者の農薬不正使用を防げなかった。レモンの残留ピフェニルを突き止める最初の調査が実施された。残留農薬研究所ネットワークは前回の査察より大幅に改善され、分析は管理効果を上げている。前回の査察の助言は取り上げられているが、ギャップが確認されている。

2. 食品及び飼料に関する緊急警告システム (RASFF)

Rapid Alert System for Food and Feed (RASFF) Portal - online searchable database

http://ec.europa.eu/food/food/rapidalert/rasff_portal_database_en.htm

RASFF Portal Database

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/portal/>

2016年第39週～第40週の主な通知内容（ポータルデータベースから抽出）

*基本的に数値の記載がある事例は基準値超過（例外あり）

*RASFFへ報告されている事例のうち残留農薬、食品添加物、食品容器、新規食品、カビ毒を含む天然汚染物質の基準違反等について抜粋

警報通知 (Alert Notifications)

ドイツ産ベルギー経由ブドウジュースのチェリーの亜硫酸塩非表示(32 mg/kg)、スペイン産冷凍メカジキロインの水銀(2.05 mg/kg)、オランダ産冷凍豚肉の鉛(0.17 mg/kg)、ドイツ産ライムギ粉のオクラトキシン A (94.8 µg/kg)、原料イラン産スロバキア製造煎った塩味ピスタチオのアフラトキシン(B1 = 51.9; Tot. = 58.3 µg/kg)、イタリア産乾燥イノシシソーセージのスルファジメトキシン(652 µg/kg)、英国産食品サプリメント摂取によるニコチン酸過剰摂取リスク、キプロス産ジャガイモのホスチアゼート(0.057 mg/kg)、ブラジル産オランダ経由生鮮ライムの未承認物質カルボフラン(0.035 mg/kg)、米国産スウェーデン経由食品サプリメントの未承認物質ヨヒンビン(0.63 mg/kg)、イタリア産酵母合成飼料とベルギー

産由来製品のダイオキシン様 PCB (2.18; 7.02 pg WHO TEQ/g)及び非ダイオキシン様 PCB (237; 215 µg/kg)、ポルトガル産冷凍メカジキ切り身の水銀(1.65 mg/kg)、ポーランド産冷凍ブロッコリーのクロルピリホス(0.45 mg/kg)、モロッコ産冷凍サバのヒスタミン(>800 mg/kg)、カンボジア産スウィートバジルの未承認物質ジチオカルバメート(19 mg/kg)及びジクロロボス(4 mg/kg)、ブラジル産マンゴーのホルメタネート(0.21 mg/kg)、など。

注意喚起情報 (information for attention)

バングラディッシュ産オクラのジメトエート(0.13 mg/kg)、ベルギー産飼料用加工動物プロテインに反芻動物の DNA の存在、インド産チルド全形イカのカドミウム(3.7 mg/kg)、タイ産砂糖漬けパイナップルスライス着色料サンセットイエローFCF(E110)高含有(77.2 mg/kg)、中国産ステンレススチール製保温ポットからの一級芳香族アミンの溶出(0.11 mg/kg)、スペイン産チルドメカジキロインの水銀(1.56 mg/kg)、など。

フォローアップ用情報 (information for follow-up)

ドイツ産魚用飼料に反芻動物の DNA の存在、イタリア産特定医療目的用カプセルの未承認物質アスタキサンチン、ドイツ産有機米飲料チョコレート味のラクトプロテインの存在(カゼイン: 293 <--> 2220 mg/kg)、中国産シリコーンケーキ型の揮発性有機成分高含有(1.99 %)、英国産冷凍全形スキャンピの亜硫酸塩高含有(258.39 mg/kg)、中国産メラミンボウルからのホルムアルデヒドの溶出(32 mg/kg)、中国産フィンランド経由シリコーンヘラと接触した食品の官能特性の悪化、など。

通関拒否通知 (Border Rejections)

トルコ産ペッパー(0.101 mg/kg) ; パプリカ(0.097 mg/kg ; 0.098 mg/kg ; 0.163 mg/kg ; 0.089 mg/kg ; 0.096 mg/kg) ; レモン(0.464 mg/kg ; 0.497 mg/kg ; 0.45 mg/kg)のクロルピリホス、中国産小麦に未承認新規食品成分オニバス(*Euryale ferox*)、インド産褐色バスマティ米のオクラトキシン A(22 µg/kg)、米国産殻剥きピーナッツのアフラトキシン(B1 = 73; Tot. = 83 µg/kg)、ウズベキスタン産乾燥レーズンの亜硫酸塩非表示(23 mg/kg)、中国産イスから発送された緑茶のグリホサート(0.48 mg/kg)、パナマ産冷凍エビの亜硫酸塩高含有(197 mg/kg ; 350 mg/kg ; 254 mg/kg)、インド産チルドイカのカドミウム(1.4 mg/kg ; 1.8 mg/kg)、ドミニカ共和国産ササゲのメソミル(0.4 mg/kg)、トルコ産パプリカのクロルピリホス(0.111 mg/kg ; 0.295 mg/kg)、エジプト産塩水入りペッパーのクロルピリホス(0.16 mg/kg)及び未承認物質カルベンダジム(0.10 mg/kg)、トルコ産乾燥アプリコットの亜硫酸塩高含有(2104 mg/kg ; 2178 mg/kg)、など。

その他アフラトキシン等多数。

● 欧州食品安全機関 (EFSA : European Food Safety Authority)

http://www.efsa.europa.eu/EFSA/efsa_locale-1178620753812_home.htm

1. グリホサート：EFSA は生データを共有する

Glyphosate: EFSA to share raw data

29 September 2016

<https://www.efsa.europa.eu/en/press/news/160929a>

EFSA は、最近の EU のグリホサート安全性評価に用いられた生データを公開性の高いリスク評価の一環として発表する予定である。

2. EU 各国の食品安全当局は EFSA との協力を強化する

EU national food safety authorities commit to strengthening their partnership with EFSA

28 September 2016

<http://www.efsa.europa.eu/en/press/news/160928>

EFSA の助言フォーラムのメンバーは EFSA とその仕事への支援を継続することを再確認した。協力宣言 Declaration of Commitment において、欧州の消費者を守るため、食品安全の分野での将来の課題を解決するために EFSA と助言フォーラムの会員がともに一連の対策と活動に参加することに合意している。

* Declaration of Commitment

http://www.efsa.europa.eu/sites/default/files/160928_af_declaration.pdf

3. GM 植物のアレルギー原性ガイダンスが関係者に提示される

Draft GM plant allergenicity guidance to be presented to stakeholders

29 September 2016

<http://www.efsa.europa.eu/en/press/news/160929>

2016 年 11 月 23 日にパルマで開催される会合でガイダンス文書案が提示される。事前登録受付中。

4. 遺伝子組換え関連

- トウモロコシイベント MON810、Bt11、1507、GA21 の栽培に関するこれまでの環境リスク評価の結論とリスク管理勧告に対するスペインとフランスのトウモロコシ畑のテオシントの発生についての新しい科学的証拠の妥当性

Relevance of new scientific evidence on the occurrence of teosinte in maize fields in Spain and France for previous environmental risk assessment conclusions and risk management recommendations on the cultivation of maize events MON810, Bt11, 1507 and GA21

EFSA-Q-2016-00388

29 September 2016

<https://www.efsa.europa.eu/en/supporting/pub/1094e>

テオシントは野生のトウモロコシの祖先と考えられるメキシコと中央アメリカの植物。

EFSA はこれまでの ERA の結論や、GMO パネルが作成したトウモロコシ MON810、Bt11、1507、GA21 のリスク管理勧告を改訂する必要性を示すデータはないと結論した。そのため、これまでの GMO パネルの栽培用トウモロコシ MON810、Bt11、1507、GA21 のリスク評価の結論とリスク管理勧告は有効で適用可能なままである。

●英国医薬品・医療製品規制庁 (MHRA : Medicines and Healthcare products Regulatory Agency) <http://www.mhra.gov.uk/>

1. ホメオパシー医薬品あるいはレメディの登録

Register a homeopathic medicine or remedy

Last updated: 5 October 2016

<https://www.gov.uk/guidance/register-a-homeopathic-medicine-or-remedy#history>

簡略法あるいは国家登録計画での登録方法について、一部更新。

英国にはホメオパシー医薬品には次の二つの規制制度がある：一つは簡略登録、もう一つは国家登録計画。

簡略登録では、一次希釈液の希釈倍率が 1 万倍以上であることを証明するデータを提出し、病気の治療などの効果を謳わず、経口または外用のみが対象である。国家登録では、希釈倍率に制限はなく、伝統的使用歴に基づいており、医師の監視の必要のない軽微な症状の緩和などの宣伝ができるが品質と安全性と伝統使用を証明する必要がある。

● 英国公衆衛生庁 (PHE: Public Health England)

<https://www.gov.uk/government/organisations/public-health-england>

1. (砂糖の) 削減と組成変更に関する PHE の説明会に企業が参加

Industry attends PHE briefing on reduction and reformulation

29 September 2016

<https://www.gov.uk/government/news/industry-attends-phe-briefing-on-reduction-and-reformulation>

PHE の主導する計画は企業に子どもが多く食べる食品の砂糖を 20%減らすことを求める

9 月 29 日の PHE の説明会に食品や飲料企業、保健団体が参加した。この計画は 8 月に発表された子ども肥満対策の大きな行動である。

企業には子ども食べるものについて、砂糖を 1 年目は 5%から始めて 2020 年までに 20%

減らすことを求めた。同時に PHE は 2017 年の減塩目標達成にも継続的協力を求めた。2017 年後半には PHE はカロリー削減についても同様の計画を出す予定である。最終的には飽和脂肪も対象にするが、それは 2017 年の SACN の飽和脂肪レビューの結果を待ってからである。

-
- 英国 NHS (National Health Service、国営保健サービス)

<http://www.nhs.uk/Pages/HomePage.aspx>

1. Behind the headlines

コーヒーが認知症を予防するという主張は、良くてもいいかげん

Claims that coffee prevents dementia are lukewarm at best

Wednesday October 5 2016

<http://www.nhs.uk/news/2016/10October/Pages/Claims-that-coffee-prevents-dementia-a-re-lukewarm-at-best.aspx>

Mail Online が「コーヒーは実際認知症を予防するのに役立つ：1日に2杯で36%発症リスクを減らす」と報道した。しかしこの報道の背景にある研究をよく見ると、結果はぎりぎり有意で、偶然の可能性がある。

米国の研究者らが平均1日261 mgのカフェインを摂取する(コーヒー2~3杯に相当)閉経後の女性が認知機能障害あるいは認知症疑いのリスクが、よりカフェイン摂取量の人たちより少ないことを発見した。この研究は6,467人を最大10年フォローしたもので、カフェインを多く摂る人たちの認知機能障害リスクが少なかった。しかしカフェインの摂取量は自己申告で、デカフェ飲料は特定されておらず、全てのコーヒーや紅茶、コーラがカフェインを含むと想定されている。さらに結果は控えめに言っても小さい。研究者らは予防効果を26%(メディアが報道している36%ではない)と推定しているが、研究者らの計算によると、実際の数値はわずか1%である。

認知症やアルツハイマー病の原因はわかっておらず、明確な予防法はない。リスクを減らすためにできることは、禁煙、飲酒を減らす、健康的でバランスのとれた食生活、運動、そして精神的に活動的であり続けることである。

-
- 英国広告基準庁 (UK ASA: Advertising Standards Authority)

<http://www.asa.org.uk/>

1. ホメオパシーの広告基準

Advertising standards for homeopathy

29 September 2016

https://www.asa.org.uk/News-resources/Media-Centre/2016/Advertising-standards-for-homeopathy.aspx#.V-3EYdP_paQ

今週我々の姉妹機関である CAP（広告慣行委員会）のコンプライアンスチームが全英国のホメオパスに対して、ウェブサイトを含むマーケティングにおいて言えることと言えないことについての規則を再確認する文書を出した。

ホメオパシーは類似のもので治療するという原則に基づき、つまりある種の症状を引き起こす物質がそれを水で著しく希釈するとその症状を取り除くのに役立つ。プラクティショナーはこれが人体の自己治癒能力を促進すると信じている。しかしながら今日まで、相当量の根拠を検討したが、我々や CAP はホメオパシーに効果があるというしっかりした根拠を見たことがない。従ってプラクティショナーはホメオパシーが病気を治療できることを直接間接的に宣伝することは避けるべきである。

我々はプラクティショナーが合法的なサービスを行う宣伝をすることや、個人の選択権を制限するつもりはない。しかしながら全ての部門の広告を行う者はその宣伝内容に適切な根拠を持たなければならない。そうでない場合には我々は消費者を守るために広告の改訂や取り下げなどの要求をする。

あなたがホメオパスなら、CAP の助言とガイダンスを良く読むように。この中にはあなたが宣伝できることやできないことなどのリストが含まれる。それから宣伝を見直すように。さらなるガイドはホメオパシー協会のウェブサイトにもある。

* CAP の手紙

ADVERTISING STANDARDS FOR HOMEOPATHY

28 September 2016

<https://www.asa.org.uk/News-resources/Media-Centre/2016/~media/Files/CAP/News/Letter%20to%20Homeopaths.ashx>

11月3日までに広告の修正をするよう要求。その後一斉取り締まりを行う。

● ドイツ連邦リスクアセスメント研究所（BfR : Bundesinstitut für Risikobewertung）

<http://www.bfr.bund.de/>

1. BfR MEAL スタディー情報と協力

BfR MEAL Study - Information and Cooperation

BfR Communication No. 028/2016 of 6 September 2016

<http://www.bfr.bund.de/cm/349/bfr-meal-study-information-and-cooperation.pdf>

トータルダイエツトスタディ(TDS)は、平均的なヒトの食事中の物質の平均濃度を測定す

るために国際連合食糧農業機関(FAO)と世界保健機関(WHO)が推奨する方法につけられた名称である。これにより、健康に有益な物質と好ましくない物質がともに検査される。消費者による平均食品摂取量を決める摂取量調査の情報と組み合わせて、食品からの物質の平均総摂取量は、TDS の助けで、確実に詳細に導出できる。

ドイツ初のトータルダイエツスタディは **BfR MEAL** スタディ(Mahlzeiten für die Expositionsschätzung und Analytik von Lebensmitteln -暴露評価のための食事と食品の分析)と名付けられた。これは加工され、調理された食品の健康リスクを検査する。この研究は全ての範囲の食品を考慮に入れ、一般に食べられている状態で各料理を分析する。これらのサンプルはその後様々な物質グループについて研究所で検査される。添加物や加工により生じる汚染物質に加えて、環境汚染物質、マイコトキシン、栄養素、農薬、動物用医薬品、包装から食品に移行しうる物質が含まれる。物質の平均濃度が地域、季節、生産方法(例えばオーガニックあるいは慣行農法)に応じて個々の食品で異なる度合いも検査される。

トータルダイエツスタディは現在全世界の 50 か国以上で実施されている。BfR はドイツ連邦食糧農業省(BMEL)からドイツ初の TDS を実施するよう 2015 年に任命された。この計画はドイツ議会の決議に基づき BMEL 基金の支援を受けている。BfR MEAL スタディは 7 年間実施する計画で、個々の物質グループの最初の結果はおそらく 2019 年に入手できるようになるだろう。この研究データは公共利用ファイルやニュースレターで科学者に利用できるようになるだろう。

協力の選択肢は BfR MEAL スタディの目的内で各種分野に存在する。

BfR との協力機会

BfR MEAL スタディは以下の分野で BfR と協力する継続的機会を提供する；

- ✓ 「物質」：BfR が優先していない物質の検査による BfR MEAL スタディの補足。必要であれば問題となる食品カテゴリーの量に関するデータの補足研究と特定食品の追加的な特別サンプリングと検査(TDS メソッド)が行える。現在計画されている物質のリストは公表されている。
- ✓ 「ホットスポット」：特にドイツの地方で重要性のある、濃度が高いことが明らかな食品の補足的なサンプリングと検査(TDS メソッド)。分析により、これに関する市場調査と必要に応じ摂取量調査を実施することがある。
- ✓ 「特定の食事」：例えば母乳、グルテンフリー、「ライト」製品などと、ベジタリアン/ビーガン食品の補足的なサンプリングと検査(TDS メソッド)。これに追加して、当該消費者グループのために摂取量調査が実施されることがある。
- ✓ 「製品」：最も多く消費されている 90%の食品に属さない製品グループを明確にする補足的なサンプリングと検査(TDS メソッド)。
- ✓ 「科学プロジェクト」：BfR との科学的な協力による BfR MEAL スタディの補足。BfR に興味深い協力分野の例がいくつかある。
 - ・加工する前の個別の生鮮品の検査 (外部計画)、加工係数を導出するための貯蔵(BfR

MEAL スタディ)や調理後の結果と比較する。

- ・平均総暴露量を推定するためのヒトのバイオモニタリングのデータと BfR MEAL スタディの結果を関連づけること。

- ・業界と企業が集めた自主管理データを含む、第三者のデータと BfR MEAL スタディの結果の比較。

- ✓ 「構造基盤」：情報供給(例えば食品(成分)用の市場あるいは起源データ)、レファレンスサンプルの保存能力あるいはプロジェクトサンプルベースの設定。サンプルの輸送での後方支援。

- ✓ 「分析」：BfR MEAL サンプルの検査の入札に参加する。これについての追加情報は BfR で入手でき、BLE(例えば現在計画されている物質リスト)を通して現在入札募集中。

タイムスケジュール

BfR MEAL スタディの実験部分は 2016 年の秋に開始し、さらに 2 段階に細分化される。中核モジュール、栄養、マイコトキシンは、最初の結果が 2019 年の中旬に入手できるようにするために、最初の二年間に調査する予定である。加工汚染物質、添加物、包装から溶出する物質は 2018 年以降に調査する予定である。

計画構想から協力へ

協力計画の種類により様々な協力の選択肢が議論されるだろう。必要なサンプルや入手可能な外部資金などと一緒に、プロジェクトの概要と時間枠を BfR 研究調整部門に提出すべきである。競合する申請がある場合、BfR は BfR 委員会および/または MEAL 審議会に意見を聞く予定である。提出された申請に応じて適宜決定されるだろう。

BfR のホームページ上の BfR MEAL スタディに関する追加情報

- ・報道情報：私達の食べ物に入っているもの：食品危機は将来認知しやすくなる

http://www.bfr.bund.de/en/press_information/2016/04/what_s_in_your_food_food_related_risks_to_become_easier_to_identify-196457.html

- ・暫定物質リスト

<http://www.bfr.bund.de/cm/349/bfr-meal-study-nominated-substances.pdf>

- ・フライヤー：BfR MEAL スタディードイツ初の食事研究(ドイツ語)

<http://www.bfr.bund.de/cm/343/bfr-meal-studie-flyer.pdf>

2. 第二回ナノテクノロジーに関する合同シンポジウム

2nd Joint Symposium on Nanotechnology

(06.04.2017 - 07.04.2017)

http://www.bfr.bund.de/en/event/2nd_joint_symposium_on_nanotechnology-198746.html

(開催予告)

3. グリホサートについてさらに透明に：BfR は EFSA による生の科学データ発表を支持

する

More transparency on glyphosate: BfR supports the release by EFSA of raw scientific data

06.10.2016

<http://www.bfr.bund.de/cm/349/more-transparency-on-glyphosate-bfr-supports-the-release-by-efsa-of-raw-scientific-data.pdf>

EFSA が 2016 年 9 月 29 日にグリホサートの有効成分更新の際に使用した研究の生データを発表すると発表した。BfR はこれを歓迎する。

4. REACH 会議 2016 : 日用品中の化学物質—どうしたら消費者保護を改善できるだろうか?

REACH Congress 2016: Chemicals in everyday products - How can consumer protection be improved?

30.09.2016

http://www.bfr.bund.de/en/press_information/2016/38/reach_congress_2016_chemicals_in_everyday_products_how_can_consumer_protection_be_improved-198768.html

ヒトの健康と環境保護を規定する欧州化学物質規則 REACH は、現在包括的なレビューを行っている。REACH 会議 2016 は 10 月 5 日、6 日にベルリンで開催される。REACH による消費者保護を批判的に吟味し、考えられる課題について話し合う。

5. 危険な誤認 : キノコ中毒は死に至る危険性がある

Dangerous confusion: mushroom poisoning can be deadly

29.09.2016

http://www.bfr.bund.de/en/press_information/2016/37/dangerous_confusion_mushroom_poisoning_can_be_deadly-198764.html

胃痙攣、吐き気、嘔吐 : このような症状がキノコ中毒の典型的なものである。難民が自分で採集したキノコを食べたことによる中毒で特によく影響を受けているようだ。2016 年 9 月、BfR はタマゴテングタケ (death cap) をとって食べた難民の死亡について、受診した診療所から報告を受けた。キノコ中毒は 2015 年に合計 27 事例が BfR に報告され、そのうちの 2 件は死に至るものだった。「世界のほかの地域産の食べられるキノコと見た目がよく似た高い毒性を持つ種類のキノコがドイツにある。これは特に難民に危害を及ぼす恐れがある、」と BfR 長官 Dr. Andreas Hensel 教授は述べた。地中海地方で人気のあるキノコは、例えば食べられる欧州シロタマゴタケ (European white egg mushroom) は、ドイツ在来種の高い毒性を持つタマゴテングタケと簡単に間違えやすい。だが、地域の植生の知識があるキノコ採集者にも死に至る健康リスクがある。多くの在来種のキノコは似ているため、さっと見ただけでは簡単に混同しかねない。ごく少量のキノコでも中毒の原因となる恐れがあるので、子供と老人には特別なリスクとなる。

毒がある、あるいは食べられないキノコによっておこる健康リスクは、無毒種とよく間違えられる有毒種で比較的高い。タマゴテングタケはドイツで最も毒性の高いキノコの一つである。およそ 50 g のこの種の生鮮キノコはたった一つで一人の成人の致死中毒の原因になることがあり、一人の子供を殺すにはこの量の半分で十分である。キノコ中毒の全事例のおよそ 5% が、主に 7 月から 10 月まで落葉樹の森林で育つタマゴテングタケを摂取したことによるものだが、これは公園で見つかることもある。これらのキノコは、マッシュルームやベニタケのような多くの食べられる種類と簡単に間違えやすい。タマゴテングタケはキノコ中毒の致死事例全体のおよそ 80% の原因である。

もしキノコを食べた後不快な気分になったら、いつでも医者への助言を求めるべきだし、対処法について中毒センターに相談すべきである。いかなる状況でも診療指示がなければ治療は行われない。吐かせるといった一見害のない対処でも、肺に嘔吐物が入り込むなどの深刻な結果になりうる。牛乳が毒の摂取量を増やすことさえありうる。

BfR の冊子「**Risiko Pilze**」(キノコによるリスク)は、pdf ファイルで BfR のホームページから無料でダウンロードでき、食べられる、食べられない、毒のあるキノコについての情報を提供している：http://www.bfr.bund.de/cm/350/risiko_pilze.pdf

この BfR の冊子は現在英語とアラビア語に翻訳されている。ここでの BfR の目的は難民の母国語で入手できるリスクコミュニケーション方法を選択できるようにすることである。パンフレット「妊婦のための授乳の推奨」と「幼年期の授乳の推奨」やリーフレット「ケータリング部門の衛生規則」—需要の多い BfR の出版物—はすでにアラビア語で入手可能であり、BfR のホームページから無料でダウンロードできる。

BfR 中毒及び製品文書化センターは、科学者が提出した疑い事例も含む全ての中毒の報告を記録している。中毒事故を報告する義務の根拠はドイツ化学物質法の条項 16e である。このようにして、「中毒の傾向」が認識できるようになり、予防対策が開始される。化学法の条項 16e に従った中毒や好ましくない製品影響の事例を報告する義務に関するさらなる情報はこちらで入手可：<http://www.bfr.bund.de/de/vergiftungen-7467.html>

リンク

ハノーバー医学大学はタマゴテングタケが起こす中毒ハザードについての情報を提供するホームページ上のポスターを提供していて、これは特に難民を対象としている。パンフレットはアラビア語、クルド語、ペルシャ語を含む 8 か国語で入手できる：

[https://www.mh-hannover.de/46.html?&tx_ttnews\[tt_news\]=4180&cHash=e2bf2888f1134b648ca89fe740f1a07c](https://www.mh-hannover.de/46.html?&tx_ttnews[tt_news]=4180&cHash=e2bf2888f1134b648ca89fe740f1a07c)

情報は中毒情報センター北(Giftinformationszentrum-Nord)を通してロシア語でアクセスすることもできる：

<https://www.giz-nord.de/cms/index.php/vergiftungen-durch-pilze/252-achtung-pilzvergiftung-deutschrussisch.html>

●オランダ RIVM (国立公衆衛生環境研究所 : National Institute for Public Health and the Environment)

<http://www.rivm.nl/en/>

1. ベンタゾン、MCPA、メコプロップを用いたオランダ浸出決定樹の評価

Evaluation of the Dutch leaching decision tree with the substances bentazone, MCPA and mecoprop

2016-09-29

http://www.rivm.nl/en/Documents_and_publications/Scientific/Reports/2016/september/Evaluation_of_the_Dutch_leaching_decision_tree_with_the_substances_bentazone_MC_PA_and_mecoprop

吸収と分解研究を評価する新しい提案を用いて地下水へのベンタゾン、MCPA、メコプロップの浸出を評価した。これらは全て弱酸で土壌への吸収は pH に依存する。

2. ポリエチレン飲料水パイプを介する汚染地下水の浸透 : リスク評価方法

Permeation of contaminants in groundwater through polyethylene drinking water pipes. : Risk assessment procedure.

2016-10-06

http://www.rivm.nl/en/Documents_and_publications/Scientific/Reports/2016/oktober/Permeation_of_contaminants_in_groundwater_through_polyethylene_drinking_water_pipes_Risk_assessment_procedure

地下水に含まれる汚染物質が、プラスチックの水道管を介して飲料水に浸透する可能性に関連するリスク評価方法を開発した。段階的計画により不必要な検査を最小限に留めながら飲料水リスクを早期に同定できる。

●フランス食品・環境・労働衛生安全庁 (ANSES : Agence Nationale de Sécurité Sanitaire de L'alimentation, de L'environnement et du Travail)

<http://www.anses.fr/>

1. ANSES は 3 歳以下の子供の食事を精査する

ANSES scrutinises the diet of children under three years of age

30/09/2016

<https://www.anses.fr/en/content/anses-scrutinises-diet-children-under-three-years-age>

本日、ANSES は 3 歳以下の子供の多数の物質への食事暴露についての初の概要を発表す

る。実際、幼児のトータルダイエツトスタディ(iTDS)では、赤ちゃんと幼児の食事の 95% 以上をカバーし、およそ 670 物質を分析した。この研究では、毒性参照値に関して高水準の健康管理を確認し、評価された物質のほとんどでリスクが除外できた。だが、いくつかの点で特別に注意する必要がある：リスクが除外できなかった物質あるいは物質類の中で、優先的に考慮する必要がある 9 つを含む 16 で暴露を減らす必要がある（例えばヒ素のような重金属、あるいは PCBs のような難分解性有機汚染物質）。ANSES はそのため、幼児集団のこれらの物質への暴露を減らす手段を助言し、詳細リスク評価用にさらなる知見を得るよう推奨している。

この研究の知見に照らし、ANSES は、国家健康及び栄養計画(PNNS)の助言に従う重要性と、特に 6 か月未満の乳児には乳児用粉ミルク以外の食事を導入しないよう、その後いろいろな種類と産地の食事を与えるよう強調している。さらに、ANSES は乳児に必要なものは母乳と乳児用粉ミルクだけで満たせると繰り返し述べた。生産する動物種に関係なく普通のミルクは 1 歳以下の子供の栄養としてふさわしくない。

ANSES のトータルダイエツトスタディ(TDS)は食品に存在する非常に多くの物質への暴露を監視することを目的としている：残留農薬、環境汚染物質、加熱副生成物、自然毒、添加物、微量元素、ミネラルなど。

本日、ANSES は第三回 TDS の結果を発表した。今回は 3 歳以下の子供の食事、データが少なく特定の食品を摂取する感受性の高い集団、を取り上げている。子供の食事を精査した結果、約 670 物質を分析し、そのうち 400 のリスクを検討した。国際レベルでも、これは 3 歳以下の子供に着目したこのようなスケールでは最初の研究である。

高水準の健康管理、だがいくつかの物質は監視すべき

乳児の TDS の結果から、食品中にありうる化学汚染物質に関し、高水準で健康リスクが管理されていることが確認された。実際に、評価された物質の 90% でリスクを除外できた。

だが、9 つの物質には、事態は特別な警戒が求められている。無視できないほどの人数の子供たちが毒性参照値を超えて暴露されている物質がある（無機ヒ素、鉛、ニッケル、PCDD/Fs、PCBs、T-2 & HT-2 マイコトキシン、アクリルアミド、デオキシニバレノールとその誘導体、フラン）。他の 7 つの物質、特にアルミニウム、コバルト、ストロンチウム、メチル水銀、セレン、カドミウム、大豆摂取者のゲニステインで、リスクを除外できない。これらの 16 物質のうちいくつかの暴露はすでに ANSES のこれまでの作業で懸念として認識されていた。

栄養上の関心となる 12 のミネラルも iTDS の枠組みで分析された。概して必要栄養量は満たされているという結果が示された。だが、子供の年齢によっては亜鉛、カルシウム、鉄の摂取不十分と、亜鉛とカルシウムの過剰摂取が指摘された。これらの過剰摂取に関する潜在的な健康リスクにはさらなる研究が必要である。

ANSES の助言

これらの知見に照らして、ANSES は食品中にこれらの化学物質が存在する原因をさらに

理解する重要性を繰り返し述べた。

懸念ありとされる 9 物質を含む 16 物質の監視に関し、暴露量を減らすことを目指す管理措置が確立され強化されるべきである(環境への放出を管理する政策、工程管理、規制値の設定あるいは削減)。リスクが除外できないあるいは評価できない物質に関しては、ANSES は追加の知見を入手するよう助言する。

この研究から、乳児用粉ミルクを摂取するよりいろいろな食品を食べることの方が、必ずしも懸念される暴露量ではないが、ある種の汚染物質により多く暴露されることが示されていて、ANSES は国家健康と栄養計画(PNNS)の助言に従って生後 6 か月になってから食事を与え始めることの必要性を強調している。生後 6 か月を過ぎたらいろいろな種類と産地の食品を与えるよう、ANSES は一般的な助言を繰り返し述べた。

研究では 1 歳以下の子どもの一部が通常のミルクを摂取していることも明らかにした。ANSES は母乳と乳児用粉ミルクだけが乳児の需要をカバーできると繰り返し述べた。通常のミルクは、生産する動物種に関わらず、1 歳未満の子供たちの栄養要求に適さない。

* 幼児期の食事—ANSES、動画サイト Vimeo (フランス語)を公開

展望

この研究の枠組みで得た汚染物質と暴露のデータは、特に混合物暴露と複合暴露の問題について、現在進めている作業に情報を提供している。

iTDS とその結果は、特に今後の評価作業で、ANSES の今後の展望を多数同定している。

第一に、パリ公共病院システム(AP-HP)と協力して実施した CONTA-LAIT 研究は母乳の汚染物質に関する iTDS の結果を補足し、フランスで母乳で育てることについての利益とリスクを評価するのに役立つだろう。さらに、ANSES はナノ粒子製品に関するリスクを調べる必要性を強調している。この問題について、ANSES は子供と成人両方の食品に存在するナノ物質に関するリスク評価作業にまもなく着手する予定である。

化学物質の「内分泌かく乱」影響の問題は食品リスク評価の主な課題でもある。ANSES は適切な研究プロジェクトで、関係者である第 3 次全国環境及び健康行動計画(PNSE3)と国家内分泌かく乱戦略(SNPE)の枠組みで実施される作業同様、特定物質の内分泌かく乱の特性に関するデータを得るための作業を続けるだろう。

最後に ANSES は、食品に存在する化学物質への(及び新興の懸念のある新しい物質への)食事暴露の概要を示すトータルダイエットスタディの戦略的価値に注目し、それにより消費者の暴露量の公衆衛生の観点から関連する知見を提供する。

追加情報

・宣伝資料 2016 年 9 月 28 日—ANSES は 3 歳以下の子供の化学物質への食事暴露に関する研究結果を提示する

Press kit dated 28 September 2016 - ANSES presents the results of its study on dietary exposure of children under three years of age to chemical substances (Soon in English)

<https://www.anses.fr/fr/system/files/PRES2016DPA09.pdf>

・ ANSES 意見と報告書—幼児の TDS Volume 1—ANSES の意見—概要と結論(フランス語)

ANSES opinion and report - Infant TDS Volume 1 - ANSES opinion - Summary and conclusions (in French)

<https://www.anses.fr/fr/system/files/ERCA2010SA0317Ra.pdf>

・ ANSES 報告書—幼児の TDS Volume 2-パート 1—方法、制限、不確実性(フランス語)

ANSES report - Infant TDS Volume 2 - Part 1 - Methods, limits and uncertainties (in French)

<https://www.anses.fr/fr/system/files/ERCA2010SA0317Ra-Tome2-Part1.pdf>

・ ANSES 報告書—幼児の TDS Volume 2-パート 2—無機化合物 (フランス語)

ANSES report - Infant TDS Volume 2 - Part 2 - Inorganic compounds (in French)

<https://www.anses.fr/fr/system/files/ERCA2010SA0317Ra-Tome2-Part2.pdf>

・ ANSES 報告書—幼児の TDS Volume 2-パート 3—有機化合物 (フランス語)

ANSES report - Infant TDS Volume 2 - Part 3 - Organic compounds (in French)

<https://www.anses.fr/fr/system/files/ERCA2010SA0317Ra-Tome2-Part3.pdf>

・ ANSES 報告書—幼児の TDS Volume 2-パート 4—農薬の結果 (フランス語)

ANSES report - Infant TDS Volume 2 - Part 4 - Results for pesticide residues (in French)

<https://www.anses.fr/fr/system/files/ERCA2010SA0317Ra-Tome2-Part4.pdf>

● アイルランド食品安全局 (FSAI : Food Safety Authority of Ireland)

<http://www.fsai.ie/index.asp>

1. 生鮮製品のより安全な生産のための新しいガイダンス

New Guidance for Safer Production of Fresh Produce

Tuesday, 4 October 2016

https://www.fsai.ie/news_centre/press_releases/fresh_produce_guidance_04102016.html

FSAI は農場での生鮮生産物の安全な生産を援助する新しいガイダンスを発表した。このガイドと単純化したリーフレットは、生鮮産物のリスクについて概要を説明し、リスクを減らし安全性を向上させるための実行可能な助言を提供する。以下のような内容を含む。

- ・ 育てるのに適した場所を選ぶ
- ・ 動物や害虫や人間が出入りすることを制限する
- ・ 有機肥料は安全に使う
- ・ 農薬は安全に使う

- ・安全な水を使う
- ・収穫の際の服務規程を守る
- ・スタッフを訓練し良い装備品を提供する
- ・トレーサビリティとリコールシステムを稼働

農産物のリスクは排除できないが減らすことはできる。場所で最も重要なのが畜産との時間的空間的距離である。畜産と農産物の栽培を一緒に行ってはいけない。もともとヒ素やカドミウムなど汚染物質の多い土壌は避ける。洪水の起きやすい場所、上流で畜産が行われているようなところは避ける。灌漑用水の水質は調べる。雨水や未処理水は使わない。農場の外に土を持ち出さない。最終洗浄は飲料水を用いる。労働者の健康と安全をチェックする。働く場所の歩いて5分以内に水洗トイレと流水の流しを置く。水は温水(38~40℃)で蛇口に触らないシステム、液体せっけん、使い捨てタオルあるいはドライヤーを使う。

2. ニコチン酸含量が高いため Grenade.50 Calibre Pre-Workout のリコール

Recall of Grenade.50 Calibre Pre-Workout Due to High Nicotinic Acid Content

Friday, 7 October 2016

https://www.fsai.ie/news_centre/food_alerts/recall_grenade50.html

表示によると、英国産のサプリメント製品「Grenade.50 Calibre Pre-Workout」は一回量で40 mgのニコチン酸を提供し、耐容上限摂取量10 mg/dを超える。また一回量で550 mgのカフェインを含む。製品の写真を掲載。

● フィンランド食品安全局 (Evira/ Finnish Food Safety Authority)

<https://www.evira.fi/en/>

1. 魚の摂取に関する食事アドバイス

Dietary advice on fish consumption

改訂 27.9.2016

<https://www.evira.fi/en/foodstuff/information-on-food/food-hazards/restriction-on-the-use-of-foodstuffs/dietary-advice-on-fish-consumption/>

魚は推奨される食品で、魚をもっと摂取するべきである。魚は健康的な脂肪酸、数種類のビタミンとミネラル、たくさんのたんぱく質を含んでいる。魚には特に n-3 脂肪酸とビタミン D が豊富に含まれている。魚に含まれる有益な脂肪酸は心疾患のリスクを減らすことが示されている。

国家栄養評議会の助言

- ・魚は少なくとも一週間に二回食べるべきである。
- ・様々な種類の魚が食事に変化を与えるだろう。

魚の摂取についての食事アドバイスの例外

魚の有益な栄養価にもかかわらず、バルト海、特にボスニア湾とフィンランド湾でとれたサケ、マス、ニシンを摂取すると、消費者には健康に有害なダイオキシンや PCB 化合物が通常量より高くなる恐れがある。また、通常量より高いメチル水銀が捕食魚、特に内水域でとれたキタカワマス (pike) から検出されることがあるが、海でとれたキタカワマスからも検出されることがある。魚齢が上がるほど、より多くの汚染物質が蓄積される。

これらの理由から、フィンランド食品安全局 **Evira** は魚の摂取に関する一般的な食事アドバイスに以下の例外を公表している。

- ・ 子供、青年、老人は汚染された 17cm 以上の大きなニシンを食べないほうが良く、もしくはその代わりにバルト海でとれたサケやマスを月に 1~2 回以上食べるとよい。
- ・ 子供、青年、老人は湖や海でとれたキタカワマスを月に 1~2 回以上食べないほうがよい。
- ・ 妊娠中の女性と授乳中の母親は、水銀が蓄積されているのでキタカワマスを全く食べてはいけない。
- ・ 日常的に内水域の魚を食べている人には、水銀が蓄積している他の捕食魚についても摂取を減らすよう助言する。キタカワマスだけでなく、大きなスズキ、カワカマス、カワミンタイが含まれる。

魚汚染物質と摂取制限

食事アドバイスの目的は魚の安全な摂取を保証することである。助言は魚に含まれるダイオキシン、PCB 化合物、水銀、セシウム-137 に関連している。安全性評価は魚の一人前の分量 100g に基づいている。一人前の量が少ないなら、魚を食べる回数を増やすことができる。バルト海でとったスズキやサケ、マスは内水域の捕食魚と同じ様に時々食べてもよい。たとえば年間の総摂取量のバランスをとって制限するのであれば、夏に大量に食べてもよい。

魚の脂肪に蓄積されたダイオキシンと PCB 化合物の一部(最大 1/3)は調理前に魚の皮をはぐことで除去できる。食事アドバイスの例外は 17cm 以下の小さなニシンである。切り身にしたニシンは大抵大きく、17cm 以上の長さである。

内水域の魚のダイオキシンと PCB の量は通常低く、水銀量はキタカワマスよりもほかの湖水魚のほうが低い。魚の水銀とセシウム-137 の量は湖ごとに異なる。

養殖魚は魚飼料の品質管理が行われているので、ダイオキシンと PCB 化合物はごく少量しか含まれない。

関連する話題

- ・ 様々な種類の魚を週に二回(Evira のパンフレット)

Varying species of fish twice a week (Evira's brochure)

<https://www.evira.fi/en/about-evira/publications/food/brochures/varying-species-of-fish-twice-a-week/>

- ・ Tutkimus dioksiinin saannista, (フィンランド語)

<https://www.evira.fi/yhteiset/vierasaineet/tutkimukset-ja-projektit/dioksiinin-saanti/>

・ EU Kalat II -tutkimushanke - Itämeren tärkeimmät ympäristömyrkyt kalassa, (フィンランド語)

<https://www.evira.fi/yhteiset/vierasaineet/tutkimukset-ja-projektit/eu-kalat-ii-hanke/>

・ Vierasaineet

<https://www.evira.fi/en/shared-topics/contaminants/>

・ Usein kysyttyä vierasaineista, (フィンランド語)

<https://www.evira.fi/yhteiset/vierasaineet/usein-kysyttya/>

● 米国食品医薬品局 (FDA : Food and Drug Administration) <http://www.fda.gov/>,

1. FDA は食品表示の「健康的 (ヘルシー)」強調表示を再定義する

FDA to Redefine “Healthy” Claim for Food Labeling

September 27, 2016

<http://www.fda.gov/Food/NewsEvents/ConstituentUpdates/ucm520703.htm>

FDA は本日食品表示の「健康的 (ヘルシー)」栄養含量強調表示を再定義するプロセスを開始したことを発表した。「ヘルシー」の再定義は、消費者に公衆衛生助言に一致する食品の選択を簡単に速やかにできるようにするための情報とツールを提供し、企業がより健康的な食品を開発するよう促すための全体的計画の一部である。

FDA が栄養含量表示としての「ヘルシー」という用語をどう再定義するのか検討している間は、企業は現在の規制上の定義を満たす食品に「ヘルシー」という用語を使い続けることができる。FDA はまたガイダンス文書で説明したある種の基準を満たす製品には規制を強制する意図はないと述べたガイダンス文書も発行した (注)。

各種栄養素についての公衆衛生助言は、2015-2020 米国人のための食事ガイドラインや新しい栄養成分表示に反映されているように進化している。例えば、健康的な食生活は今や食品群、総脂肪ではなく脂肪の種類に焦点をあて、そして食事に加えられた砂糖にも対応している。また消費者が十分に摂取していない公衆衛生上の懸念となる栄養素も変わってきた。FDA は「ヘルシー」の再定義のために一般からの情報を集めるため「情報募集」も発表した。さらに公聴会も予定している。

(注) 新しい食事ガイドラインを反映し、1993 年の現行の基準では「ヘルシー」を使うことはできないが、脂肪の組成が主に不飽和脂肪酸である場合やカリウムやビタミン D が多い食品には「ヘルシー」と表示しても違法だと取り締まることはしない。食事ガイドラインの改定を反映したものの。

*企業向けガイド

Guidance for Industry: Use of the Term “Healthy” in the Labeling of Human Food

Products

<http://www.fda.gov/Food/GuidanceRegulation/GuidanceDocumentsRegulatoryInformation/ucm521690.htm>

食品包装の「ヘルシー」がその意味通りであることを確保する

Making Sure 'Healthy' Means What It Says on Food Packages

September 27, 2016 by FDA Voice

By: Douglas Balentine, Ph.D.

<http://blogs.fda.gov/fdavoices/index.php/2016/09/making-sure-healthy-means-what-it-says-on-food-packages/>

栄養成分表示についての最終規則が発表され、消費者は間もなく製品の一食分やカロリーや添加された砂糖やビタミン D、カリウムなどの追加の栄養情報が見やすくなった食品包装を目にすることになる。市場にはたくさんの食品が溢れ、新しいものや昔からあるもの、あるいはより健康的なものなどがある。情報をたくさん持っている人でも何を買うか決めるのは難しく、特に自分や家族にとってより健康的なものを選びたい場合には。

我々は多くの消費者が、特に初めて買う場合には、栄養成分表示を利用していることを知っている。またしばしば食品の包装には「ヘルシー」「低脂肪」「良い摂取源」のような用語がたくさん表示されている。我々は多くの人が一つ一つの製品の栄養成分表示を詳細に検討する時間がないことも知っている。実際のところほとんどの場合購入の決定は 3~5 秒と短い時間でなされる。

だから我々は「ヘルシー」という強調表示の定義を見直すことにした。ある種の基準を満たせば、この種の表示は食品の包装表面に使うことができ、消費者は簡単に選択できる。

栄養に関する我々の理解が進化したため、我々は「ヘルシー」の定義を最新のものにす
る必要がある。例えば最新の公衆衛生助言では今や脂肪の量ではなく脂肪の種類を問題に
している。添加された砂糖が栄養成分表示に加えられた。そして消費者が十分摂取してい
ないビタミン D とカリウムのような栄養素に注目している。定義を更新することで、より
多くの企業が製品の組成を改訂して「ヘルシー」の用語を使い、消費者により多くの「
ヘルシー」な選択肢を提供するようになることを期待する。

我々は「ヘルシー」の再定義を検討し始めたが、全ての答えを持っているわけではない。
最初の一步として、意見募集を行う。

(中略)

我々は「ヘルシー」強調表示の作業を始める一方、他の表示についても最新のものにす
る方法を検討していく。

2. シーフード HACCP

Fish and Fishery Products Hazards and Controls Guidance - Fourth Edition

<http://www.fda.gov/Food/GuidanceRegulation/GuidanceDocumentsRegulatoryInformation/>

[on/Seafood/ucm2018426.htm](http://www.fda.gov/Seafood/ucm2018426.htm)

新しく動画シリーズを 6 種類のテーマについて掲載（ヒスタミンの生成コントロールに関する情報が結構な量）。

3. FDA はホメオパシー生歯錠剤とゲルを使用しないよう警告

FDA warns against the use of homeopathic teething tablets and gels

September 30, 2016

<http://www.fda.gov/NewsEvents/Newsroom/PressAnnouncements/ucm523468.htm>

FDA は消費者に対してホメオパシー生歯錠剤とゲルは乳幼児にリスクとなる可能性があるとして警告する。FDA は消費者にこれらの使用を中止し、持っている人は捨てるよう助言する。ホメオパシー生歯錠剤とゲルは CVS や Hyland's やその他の店やオンラインなどで販売されている。もし子ども達がこれらの製品を使用して発作や呼吸困難、嗜眠、筋肉の衰弱、皮膚の発赤、便秘、排尿困難、興奮などを経験したら消費者は直ちに医師に相談するように。

「むずかりは処方薬や市販の薬なしで管理できる」と FDA の CDER の長である Janet Woodcock 医師は言う。「我々は保護者に対し子どもにホメオパシー生歯錠剤とゲルを与えないよう、そして安全な代用品については医療の専門家に相談するよう助言する」。FDA は 2010 年の安全性助言以降のホメオパシー生歯錠剤とゲルの有害事象報告を解析している。FDA はこの問題について製品の検査を含む調査を行っている。さらなる情報が得られ次第お知らせする。ホメオパシー生歯錠剤とゲルは FDA による安全性や有効性の評価も認可も受けていない。また子どもの生歯症状を緩和すると表示されているこれら製品の健康上のメリットもわからない。

4. 全国食品安全教育会議 2017-登録開始

National Food Safety Education Conference 2017 – Registration Now Open

October 5, 2016

<http://www.fda.gov/Food/NewsEvents/ConstituentUpdates/ucm523552.htm>

2017 年 1 月 25～27 日にワシントンで開催される第 6 回全国消費者食品安全教育会議の早期登録が開始された。テーマは行動変容－安全でない食品取り扱い習慣をより安全なものに変えることで消費者が食中毒を避けるのに役立つ効果的な方法を探る。

5. 加工食品規制計画基準 2016 更新

Manufactured Food Regulatory Program Standards 2016 Updates

October 5, 2016

<http://www.fda.gov/Food/NewsEvents/ConstituentUpdates/ucm523145.htm>

食品の製造、加工、包装、保管施設の州による監視計画の基準を更新。

6. 栄養イニシアチブの発行日時についての食品製造業者のための Q & A

Questions and Answers for Food Manufacturers on Compliance Dates for Nutrition Initiatives

October 7, 2016

<http://www.fda.gov/Food/NewsEvents/ConstituentUpdates/ucm524050.htm>

FDA にいくつかの質問があったため、以下の Q & A を提供する。

- ・ 2018 年 6 月 18 日 : FDA に認可された場合を除き部分水素添加油を含まないことを確保
- ・ 2018 年 7 月 26 日 : 年 1000 万ドル以上の売り上げのある製造業者は新しい栄養成分表示
- ・ 2018 年 7 月 26 日 : 表面がガラスの自動販売機の運営者は自動販売機の表示規則に従う
- ・ 減塩イニシアチブは自主的取り組みなので発効日はないが目標達成の時間的枠組みは推奨している、など。

7. 警告文書

- Tensen Dairies LLC 6/17/16

<http://www.fda.gov/ICECI/EnforcementActions/WarningLetters/2016/ucm521256.htm>

食用として販売された乳牛の残留動物用医薬品アンピシリン

- Leon Varel 8/22/16

<http://www.fda.gov/ICECI/EnforcementActions/WarningLetters/2016/ucm521982.htm>

食用として販売された乳牛の残留動物用医薬品デスフロイルセフチオフル

- Positive Power Nutrition 9/15/16

<http://www.fda.gov/ICECI/EnforcementActions/WarningLetters/2016/ucm521441.htm>

各種ダイエタリーサプリメントのウェブやチラシでの宣伝が未承認新規医薬品、ダイエタリーサプリメント CGMP 違反。指摘事項多数

- Ajes Pharmaceuticals LLC 9/9/16

<http://www.fda.gov/ICECI/EnforcementActions/WarningLetters/2016/ucm521968.htm>

FDA がダイエタリーサプリメント工場を査察した結果、カプセルを含む製品の組成の確認をしていないなど各種 CGMP 違反が明らかになった。指摘事項への回答も不十分。

- Frontier Japan Inc. 9/15/16

<http://www.fda.gov/ICECI/EnforcementActions/WarningLetters/2016/ucm521374.htm>

シーフード HACCP 違反。

-
- 米国農務省 (USDA : Department of Agriculture)

<http://www.usda.gov/wps/portal/usdahome>

1. USDA は遺伝子組換えクリーピングベントグラスの環境影響声明案を発表

USDA Announces Availability of Draft Environmental Impact Statement for GE Creeping Bentgrass

https://www.aphis.usda.gov/aphis/newsroom/news!/ut/p/z1/fZDNUsIwFIWfxUWX4abFtuCu-FN0EHQQsdl0kja0QZrUJLi8vQGdcVAhq9zkOyfnBAi8AJH0XVTUCiXpys0ZifLR5PzSH0zxKL15uMbJbHI3uB3jAI9DmB8Ck-dhhJPrp9nTuOePbvtDIKf1z5ANIEvT-HG--W32l96Z4SMrwU5PDt_7HSf4Bk543AGpVop9dU8k6_YqIJovuOa6s9buuLa2vfCwh2mnpZL2pG8s2w9vJZ8Sxvq4f-ktTIWXg4lkLnC8bHCaRrB_F3wDeyk0o1LNN3FbwtRQsZ8VhZBEKCwzyJ0XsQxoiXroX6wwHFMcx76Pgz3dU5_qYsqm9vJAFSKGn5xy5lWwuT70dp85Vgmuqthw3Njd8YrVSzH4yLr7xWq5LrnEqp1rLgiVOY_S3b5qXr6vY_GDrAUID9aMci3PdwyYVBhea8FbJCzAGVpsZA28zkFr0u7m3IwqrJr0bJ2SdKjeYF/dz/d5/L2dBISEvZ0FBIS9nQSEh/?uril=wcm%3Apath%3A%2Faphis_content_library%2Fsa_newsroom%2Fsa_stakeholder_announcements%2Fsa_by_date%2Fstakeholder-announcements-2016%2Fsa-09%2Fdeis-creeping-bentgrass

APHIS はグリホサート耐性 GE クリーピングベントグラス（芝草）の規制解除申請の一環としての環境影響声明案を発表し、45 日間のパブリックコメントを募集する。

2. 動物の育て方に関する強調表示を立証するために提出する必要がある書類についての FSIS ガイドライン

Docket No. FSIS-2016-0021

Food Safety and Inspection Service labeling Guideline on Documentation Needed to Substantiate Animal Raising Claims for Label Submission

<http://www.fsis.usda.gov/wps/wcm/connect/d11dde0b-6638-4465-b8fd-25be98f1bd4b/2016-0021.pdf?MOD=AJPERES>

「抗生物質を使わないで育てた」「オーガニック」「芝草を与えた」「フルーレンジ」「ホルモンを使わないで育てた」などの表示をする場合に必要な文書についてのコンプライアンスガイドラインの更新版を公表。2016 年 12 月 5 日までコメントを募集。

● 米国連邦取引委員会（FTC : Federal Trade Commission）

<http://www.ftc.gov/index.shtml>

1. FTC、USDA は「オーガニック」強調表示の消費者の認識についての円卓会議の議題を発表

FTC, USDA Issue Agenda for Roundtable on Consumer Perceptions of “Organic” Claims
September 30, 2016

<https://www.ftc.gov/news-events/press-releases/2016/09/ftc-usda-issue-agenda-roundtable-consumer-perceptions-organic>

2016年10月20日にワシントンで開催される会議の議題について。

* Consumer Perceptions of “Organic” Claims Roundtable

<https://www.ftc.gov/news-events/events-calendar/2016/10/consumer-perceptions-organic-claims-ftc-usda-roundtable>

USDA の認証対象ではない製品の「オーガニック」表示について

* 企業向け blog : 議題となるオーガニック

Organic on the agenda

By: Lesley Fair | Sep 30, 2016

<https://www.ftc.gov/news-events/blogs/business-blog/2016/09/organic-agenda>

2. 米国巡回裁判所は **LeanSpa** 減量サプリメントの詐欺的第三者宣伝についてアフィリエイトマーケティングネットワーク運営者に責任があることを発見した

U.S. Circuit Court Finds Operator of Affiliate Marketing Network Responsible for Deceptive Third-Party Claims Made for LeanSpa Weight-loss Supplement

October 4, 2016

<https://www.ftc.gov/news-events/press-releases/2016/10/us-circuit-court-finds-operator-affiliate-marketing-network>

米国二次巡回控訴裁判所が下級審の判断を支持し、アフィリエイトマーケティンググループの運営者に対して **LeanSpa** 減量サプリメントの詐欺的宣伝を手伝ったため 1190 万ドルを支払うことを要求した。

LeadClick Media 社はインチキニュースサイトを使って **LeanSpa** のウェブサイトにはトラフィックを誘導していたアフィリエイト marketer を雇っていた。LeadClick はそのニュースサイトがインチキであることを知っていたが、消費者がその嘘に騙されるように援助していた。LeadClick は合法的オンラインニュースサイトからバナースペースを購入して、それをインチキニュースサイトに販売し、消費者が記事の内容を信じてしまう可能性を高めた。

3. 関節痛サプリメントの販売業者は詐欺的宣伝や保証について **FTC** に罰金を払うことに合意

Marketers of Joint Pain Supplement Agree to Settle FTC Charges of Deceptive Advertising, Endorsements

October 5, 2016

<https://www.ftc.gov/news-events/press-releases/2016/10/marketers-joint-pain-supplement-agree-settle-ftc-charges>

グルコサミンとコンドロイチンの液状サプリメントである **Supple** の販売業者は、この製品が関節炎や繊維筋痛症による慢性のひどい関節の痛みから完全に解放される、関節痛を取り除くことが科学的に証明されている、という虚偽の宣伝を行ったことで罰金を払うこ

とに合意した。

FTC の訴えによると、ウィスコンシンの **Supple** 社とその社長 **Peter Apatow** とその前妻 **Monita Poudyal** 博士はインフォーマーシャルやソーシャルメディア、その他インターネットの宣伝、ラジオ広告、パンフレット、イベントなどで **Supple** を宣伝した。24 日分 70 ドルで、2011 年から 15 年間に全国で 1 億 5060 万ドル以上を売った。インフォーマーシャルでは **Poudyal** 博士が医学番組のホストのような形で **Apatow** をゲストとして **Supple** をオールナチュラルな、医薬品と同等の効果のある関節痛緩和飲料と説明した。FTC はそれらに根拠が無く虚偽であると訴えた。罰金は 1 億 5000 万ドル。

*消費者向けブログ

大きな効果を約束するサプリメントには注意

Beware of supplements promising big relief

October 5, 2016 by Cristina Miranda

<https://www.consumer.ftc.gov/blog/beware-supplements-promising-big-relief>

身体が痛いときに市販薬で治療しようとするだろう。でも関節炎や繊維筋痛で関節が動かしにくかったりするような場合は医師に相談するのがよい。この種の症状を治療できると宣伝している製品にはその誇大広告の根拠がない。本日 FTC は関節痛からの「完全で長く続く解放」を約束する「臨床試験で証明された」サプリメントを宣伝している企業との合意を発表した。**Supple** 社は関節や骨、腰、筋肉の痛みを終わらせる会社と自社を宣伝し、グルコサミンとコンドロイチンサプリメントが慢性の痛みを緩和し軟骨や関節の構造を再構成し機能を取り戻すとするサプリメント、**Supple** を宣伝していた。しかしその根拠は全く虚偽であった。

大きな効果を約束するサプリメントについて、あなたのお金や健康を賭けるのは価値があるだろうか？ 私達の記事やインフォグラフィックスを参照して欲しい。

*事業者向けブログ

フレキシビリティが長所でなくなる時 : **Supple** 事例からの教訓

When flexibility isn't a virtue: Tips from the Supple case

By: Lesley Fair | Oct 5, 2016

<https://www.ftc.gov/news-events/blogs/business-blog/2016/10/when-flexibility-isnt-virtue-tips-supple-case>

科学的立証に関しては、柔軟性があることは良いことではない。

● カナダ保健省 (Health Canada、ヘルスカナダ)

<http://www.hc-sc.gc.ca/index-eng.php>

1. 害虫管理製品登録者査察

Pest control product registrant inspections

Date Modified: 2016-10-04

<http://healthycanadians.gc.ca/apps/registrant-titulaire/index-en.html>

2016年4月1日以降に行った査察のデータベース。

● オーストラリア TGA (TGA : Therapeutic Goods Administration)

<http://www.tga.health.gov.au/index.htm>

1. 安全性助言

● Bee Sexy Slimming capsules

11 October 2016

<http://www.tga.gov.au/alert/bee-sexy-slimming-capsules>

TGA の検査で表示されていないシブトラミンが検出された。製品の写真を掲載。

● Vigour 300 tablets

11 October 2016

<http://www.tga.gov.au/alert/vigour-300-tablets>

TGA の検査で表示されていないシルデナフィルが検出された。製品の写真を掲載。

● 香港政府ニュース

<http://www.news.gov.hk/en/index.shtml>

1. 汚染カニのバッチリコール

Tainted crab batches recalled

October 04, 2016

http://www.news.gov.hk/en/categories/health/html/2016/10/20161004_204729.shtml

食品安全センターが市販の24のカニを調べたところ6検体のカドミウム濃度が規制値以上だった。YATA Supermarket と AEON Stores (日本産) で販売されていたものも含む。

* Excessive cadmium found in imported crab samples

<http://www.info.gov.hk/gia/general/201610/04/P2016100400895.htm>

カドミウムの規制値は2 ppm、検出された濃度は3~15 ppm

2. カニは安全性検査に合格

Crabs pass safety check

October 07, 2016

http://www.news.gov.hk/en/categories/health/html/2016/10/20161007_160831.shtml

輸入時および小売り段階で集めた 25 検体の上海ガニは化学検査に合格した。調べたのは動物用医薬品、金属汚染物質、合成ホルモン、残留農薬である。結果は満足できるものであったが、センターは消費者には季節のご馳走を購入する際には注意するよう助言する

● 韓国食品医薬品安全処 (MFDS : Ministry of Food and Drug Safety)

<http://www.mfds.go.kr/index.do>

1. 日本産輸入食品の放射能検査の結果

検査実査課/輸入食品政策課

- 2016.9.23.～2016.9.29

<http://www.mfds.go.kr/index.do?mid=676&pageNo=1&seq=33699&cmd=v>

- 2016.9.30.～2016.10.6

<http://www.mfds.go.kr/index.do?mid=676&seq=33783>

2. 説明資料 (アジア経済「食品異物が摘発された大企業の処罰 ‘軽い’」の記事に関連する)

食品管理総括課 2016-10-05

<http://www.mfds.go.kr/index.do?mid=676&seq=33729>

アジア経済が 10 月 5 日報道した「食品異物が摘発された大企業の処罰 ‘軽い’」記事内容に対して次のように説明する。

食品医薬品安全処の食品異物混入による行政処分は、食品衛生法で規定した手続きにより誰に対しても公正に適用している。食薬処は、消費者からの異物申告が受付されると、消費・流通・製造段階に対する現場調査で異物混入の原因を糾明している。製造過程で異物が混入されたということが確認された場合には、混入された異物のリスクの程度及び違反回数に従って行政処分を区分実施している。

* リスク程度が高い異物：刃物は停止 15 日 (1 次)、金属・硝子は停止 7 日 (1 次)

**リスク程度が低い異物：髪の毛・糸など是正命令 (1 次)

4 中小企業が営業停止処分を受けた理由は同一で、繰り返し違反したり金属のように危害度の高い異物が製造段階で混入されたことが確認されたからであり、零細企業にだけ厳格な規定を適用するという記事内容は事実と異なる。

3. 中国産冷凍カワニナの肉から鉛が基準を超過して検出されて回収措置

農水産物安全課 2016-09-30

<http://www.mfds.go.kr/index.do?mid=675&pageNo=1&seq=33698&cmd=v>

食品医薬品安全処は、京畿道の輸入業者が輸入・販売した中国産‘冷凍カワニナ肉’から鉛が基準超過検出（2.9 mg/kg、基準:2.0 mg/kg）されたため製品を回収措置していると発表した。回収対象は製造日付が2016年7月5日の製品である。

4. 入念にチェックして、健康に食べよう！

栄養安全政策課 2016-09-26

<http://www.mfds.go.kr/index.do?mid=675&pageNo=2&seq=33583&cmd=v>

食品医薬品安全処は、消費者が食品の包装に表示された糖・ナトリウム含量を確認して食品を選択するように‘栄養表示確認キャンペーン’を9月26日から10月2日まで全国248大型店と共同で実施すると発表した。

● シンガポール農畜産食品局（AVA : Agri-Food Veterinary Authority of Singapore）

<http://www.ava.gov.sg/>

1. 第38回 ASEAN 農業森林担当閣僚会議 共同声明

THIRTY EIGHTH MEETING OF THE ASEAN MINISTERS ON AGRICULTURE AND FORESTRY JOINT PRESS STATEMENT

6 October 2016, Singapore

<http://www.ava.gov.sg/docs/default-source/press-releases/jps-38th-amaf.pdf>

2016～2025年の各分野での戦略プランについて

KHAW BOON WAN 大臣による開会挨拶

OPENING ADDRESS BY MR KHAW BOON WAN,

COORDINATING MINISTER FOR INFRASTRUCTURE AND MINISTER FOR TRANSPORT, AT THE OPENING CEREMONY OF THE 38TH MEETING OF THE ASEAN MINISTERS ON AGRICULTURE AND FORESTRY (AMAF) AND 16TH AMAF PLUS THREE MEETINGS ON 6 OCTOBER 2016 (THURSDAY) AT 9.15AM AT MARINA MANDARIN HOTEL

http://www.ava.gov.sg/docs/default-source/default-document-library/speech_38th-amaf_opening-ceremony.pdf

食糧安全保証、気候変動と抗菌剤耐性、持続可能な漁業等が議題

● その他

ProMED-mail

シガテラ中毒ーインド：(カルナタカ) 汚染魚、第一報

Ciguatera poisoning - India: (KA) contaminated fish, 1st report

2016-10-05

<http://www.promedmail.org/post/4539230>

Date: Mon 3 Oct 2016 Source: Outbreak News Today [edited]

インド亜大陸で初めて、Mangaluru で魚の頭部を食べた 100 人以上（2016 年 10 月 1 日時点）が病気になったシガテラアウトブレイクが報告された。生物学者は各種条件により今後もアウトブレイクは発生すると警告している。

EurekAlert

● **BMJ 症例報告：代替療法の危険性、ラプンツェル症候群、ダニ媒介疾患**

BMJ Case Reports: Alternative therapy dangers, rapunzel syndrome, tick-born illness

6-Oct-2016

https://www.eurekalert.org/pub_releases/2016-10/b-bcr100516.php

(代替療法の危険性の部分のみ抜粋)

4 才の自閉症の男の子がホリスティックサプリメントを使用するように言われて嘔吐、便秘、体重減少、食欲不振などの多様な症状で救急に来た。各種テストの結果、高カルシウム血症とビタミン D 濃度が高かった。数日後に母親がナチュロパスの助言でカルシウム、ビタミン D、タラ肝油、ラクダのミルク、銀、亜鉛、epsom バスソルトを含む 12 種類のサプリメントを子どもに与えていたことを認めた。

* Severe hypercalcaemia in a child secondary to use of alternative therapies

BMJ Case Reports 2016; doi:10.1136/bcr-2016-215849

Catriona Boyd, Abdul Moodambail

<http://casereports.bmj.com/content/2016/bcr-2016-215849>

● **2015 年の前例のない有毒藻類の大発生には海の状態が寄与**

Ocean conditions contributed to unprecedented 2015 toxic algal bloom

4-Oct-2016

https://www.eurekalert.org/pub_releases/2016-10/uow-occ100416.php

ワシントン大学と NOAA の研究者らの研究が、2015 年の西海岸の有毒藻類の大発生は冬と春の海水温の普通でない暖かさに関連すると Geophysical Research Letters に報告した。2015 年は *Pseudo-nitzschia australis* が発生しドゥモイ酸汚染を起こした。

NY州司法長官

A.G. Schneiderman は Walgreens と Walmart 向けのハーブサプリメントを作っている NBTY と大きな全国的合意を発表した

A.G. Schneiderman Announces Major Nationwide Agreement With NBTY, Herbal Supplement Maker for Walgreens And Walmart

September 28th 2016

<http://www.ag.ny.gov/press-release/ag-schneiderman-announces-major-nationwide-agreement-nbty-herbal-supplement-maker>

業界をリードするサプリメント製造業者 NBTY は、DNA バーコード法を用いてハーブ製品の真正性を確認し、ピーナッツや大豆などのアレルギーを検査し、ハーブの遺伝子研究に 25 万ドルを投資し、原材料メーカーに対して第三者認証を提出するよう要請し、主要供給メーカーの現場査察を二倍にする。

司法長官の調査で調べた多くのサプリメントが表示されている植物を含まないことが明らかになってから、FDA の緩い基準を上回る改訂が行われる。

Schneiderman は、他のハーブサプリメント業者も消費者を守るためにこの機会をとらえさらに改革するよう強く求める。

以上

食品化学物質情報

連絡先：安全情報部第三室